

／平成 25 年度学校協議会

<協議会委員> (敬称略)

- ・古郷 幹彦 (大阪大学大学院歯学研究科教授)
- ・森田 英嗣 (大阪教育大学教育学部教授)
- ・高尾 千秋 (神戸大学発達科学部助教)
- ・竹村 伍郎 (NPO 法人 まち・すまいづくり本部 地域情報誌「うえまち」編集局長)
- ・永安 卓 (大阪市立高津中学校 校長)
- ・五十嵐 一嘉 (本校 前 PTA 会長)
- ・徳山 豪 (本校 PTA 会長)

／平成 25 年度 第 1 回学校協議会議事録

日 時 平成 25 年度 7 月 19 日

場 所 高津高校 校長室

出席者

委員

古郷 委員

森田 委員

高尾 委員

竹村 委員

永安 委員

五十嵐委員

徳山 委員

事務局

尾上 校長

河合 教頭・事務局長

西脇 事務長・会計

伊勢田首席・事務局

野口 首席・事務局

小谷 教諭・事務局

会議概要

1. 挨拶 (校長 尾上良宏)

2. 学校からの説明

① 平成24年度進学指導特色校評価について

平成24年度評価シートをもとに確認をした。

総合評価は今後、府教委のホームページにアップされることになる。

② 平成25年度学校経営計画及び学校評価

活動の評価について、遅刻者数などは具体的な数字で示すことができるが、その他多くはアンケート中心になる。

③ 体験型進路学習について

1年生は63社の職場を訪問し、学習成果をまとめ、東成区民センターで発表会を実施した。

2年生は50の大学研究室を訪問し、学習成果をパネルにまとめ、ホテルアウターナで

ポスターセッションを実施した。

3. 質疑応答・討議・その他

① 授業アンケート質問用紙について

授業アンケートをもとに授業改善に繋げていく。授業アンケート以外に校長、教頭が授業観察を

おこなう機会がある。

② 広報について

今年度は、1年間の学校教育活動を写真にまとめたチラシを作成した。

今後の日程

第2回 12月13日(金)午後5時

第3回 3月28日(金)午後5時

／平成25年度 第2回学校協議会議事録

日 時 平成25年12月13日

場 所 高津高校 校長室

委員

古郷 委員

森田 委員

高尾 委員

竹村 委員

永安 委員

五十嵐委員

徳山 委員

事務局

尾上 校長

河合 教頭・事務局長

西脇 事務長・会計

伊勢田首席・事務局

野口 首席・事務局

小谷 教諭・事務局

会議概要

1. 挨拶（校長 尾上良宏）

2. 学校からの説明

① 平成24年度進学指導特色校評価について

今年度、ここ3年間の取り組みが評価され、10校の見直しが行われる。

② 授業力向上について

生徒による授業アンケートを実施し、各教員にフィードバックしている。

③ Super English Teacher (SET) について

平成27年度から、TOEFL iBT等を活用した授業を行うSETの導入が始まる。

高校卒業後すぐに英語圏の大学へ進学する生徒の育成を目的に行われる。

平成27年度に8校、平成28年度に15～18校が予定されている。

3. 質疑応答・討議・その他

① スマートフォンの使用についてLINEなどでトラブルが起きた時にどう対処しているか。何か起きた時に生徒が相談できる場が必要であろう。

② 学習に関するアンケートについて本校を選んだ理由として「校風」と回答した生徒が進学特色校10校中では多い。家庭学習の習慣づけが必要。つめこみの勉強ではなく、学びに対する好奇心を持たせることが重要。

今後の日程

第3回 3月28日(金)午後5時

／平成25年度 第3回学校協議会議事録

日 時 平成26年3月28日

場 所 高津高校 校長室

出席者

委員 森田 英嗣 (大阪教育大学教育学部教授)

高尾 千秋 (神戸大学発達科学部助教)

竹村 伍郎 (地域情報誌「うえまち」編集局長)

五十嵐一嘉 (高津高等学校前 PTA 会長)

徳山 豪 (高津高等学校 PTA 会長)

事務局 尾上 良宏 (校長)

西脇 富生 (事務長・会計)

野口 隆子 (首席・事務局)

小谷 智彦 (教諭・事務局)

望月 俊紀 (教諭・進路指導主事)

会議概要

1. 挨拶 (校長 尾上良宏)

2. 学校からの説明

① 平成26年度大学入試の結果について

文理学科開設後初の入試で、理系が多く、良く健闘した。

② 進学指導特色校づくりについて

学力重視だけでなく、体験型、社会参加型の学習で人間力を伸ばし、地域貢献をした。進路学習として2年次、大学研究室訪問を実施し、ポスターセッションで発表した。

③ 学校自己評価についてベテランの教員の授業を見学する機会を設け、各教員の授業改善・授業力の向上を目指した。学習状況調査を今年度より年3回行い、結果を生徒に還元するとともに、結果をふまえた指導を行った。

3. 質疑応答・討議・その他

大学研究室訪問、後輩への進路に関する助言集配付、学習状況調査等の学校の取組の効果・成果を、まとめて分析・数値化し、いかに生徒のモチベーションの上昇や、入試結果に反映しているかを明確にすべきである。各教科の授業では、生徒の状況を見る視野が狭くなるので、教員間での情報交換を行い、生徒一人一人を全方向的に把握・理解することが必要である。